

学校名をクリックすると実践報告書にジャンプします

【小学校・小中学校】

1	稚内市立稚内中央小学校	15	枝幸町立岡島小学校
2	稚内市立稚内東小学校	16	枝幸町立山臼小学校
3	稚内市立声問小学校	17	枝幸町立乙忠部小学校
4	稚内市立宗谷小学校	18	枝幸町立風烈布小学校
5	稚内市立稚内港小学校	19	豊富町立豊富小学校
6	稚内市立大岬小学校	20	礼文町立香深井小学校
7	稚内市立潮見が丘小学校	21	礼文町立船泊小学校
8	猿払村立鬼志別小学校	22	礼文町立礼文小学校
9	猿払村立知来別小学校	23	利尻町立仙法志小学校
10	猿払村立浅茅野小学校	24	利尻町立沓形小学校
11	浜頓別町立浜頓別小学校	25	幌延町立幌延小学校
12	中頓別町立中頓別小学校	26	稚内市立増幌小中学校
13	枝幸町立枝幸小学校	27	豊富町立兜沼小中学校
14	枝幸町立目梨泊小学校	28	利尻富士町立利尻小学校・鬼脇中学校

1 稚内市立稚内中央小学校（児童数 194 名）

【概要】

- ・児童の悩みや不安、友だちからされたイヤなことなどを紙に書いて、学級に設置してある「願い事BOX」の箱に入れる。（名前は書くが公表はしない。）
- ・紙に書いてあることについて、学年委員（学級の代表）で話し合い、アドバイスや意見をみんなに伝える。

【工夫点】

- ① アドバイスや意見は一人で考えず、必ず学年委員で相談する。
- ② 聞き取りが必要な場合は、書いた人や相手に話を聞きに行く。（基本は児童が行うが、状況によっては教師が聞き取る。）

【成果】

- ・学級で起こっていることを全員で確認したり、考えたりすることができた。
- ・言葉では伝えづらいことを伝えることができた。
- ・「こういうときはどうすれば良かったのか」何度も振り返ることができた。（同じことがあった場合）



【学年役員会での話し合い】

2 稚内市立稚内東小学校（児童数 327 名）

【取組の概要】

- ・いじめのない明るい学校づくりを進めるために、児童会書記局で計画を立てた朝と中休みのあいさつ運動『AM8:10 プロジェクト』。

【工夫点】

- ・12月の1か月間、書記局のメンバーが、登校時間に児童玄関に立ち、朝の元気なあいさつを行う。また、中休みに校内を同じく書記局メンバーが回りあいさつを行う。

【成果】

- ・朝はもちろんのこと中休みにもあいさつをして回ることで、児童が元気にそれぞれ声をかけ合う様子が見られた。書記局が低学年に優しく話しかけ、仲良く遊ぶ姿もあった。



【朝の児童玄関でのあいさつ】



【中休み、書記局は学級を訪問】

3 稚内市立声問小学校（児童数 15 名）

【取組の概要】

- ・全校朝会において、児童会企画によるゲームを全校児童で行った。
- ・学芸会でのお互いのがんばりをカードに書いて交換し合った。

【工夫点】

- ・児童会企画は、異学年集団が協力し合いながらゲームを進めた。
- ・ほかほかカードは、必ず全員の頑張りやよさをカードに記入し、交換した。

【成果】

- ・楽しみながら協力し合う活動を通して、仲間意識の醸成が見られた。
- ・自他のよさを認め合うことで、自己肯定感の高まりと、相手を思いやる態度の育成を図ることができた。



【全校朝会での「児童会企画」】



【「ほかほかカード」の交換】

4 稚内市立宗谷小学校（児童数 24 名）

【取組の概要】

- ・明るく楽しい学校を目指し、後期児童会書記局が率先して玄関であいさつ運動を展開。
- ・全校児童が仲良く楽しく過ごすために、月 1 回の全校レクを複数回計画・実施。（こおり鬼、四面ドッジ等）

【工夫点】

- ・あいさつ運動の曜日（火・木）を決めて、書記局が早めに登校する。無理なく継続できている。
- ・あいさつの声が大きく素晴らしい児童の紹介をし、全校児童の意識を高めている。（全校レク前、お昼の放送等）
- ・全校レクでは、チーム編成を工夫して、1年生から6年生まで、みんなが楽しめるようにしている。

【成果】

- ・全校児童のあいさつの声が日に日に大きくなっていることが、書記局としての喜びであり、進んで活動する原動力になっている。
- ・全校で楽しく遊ぶことで、さらに絆が深まっている。



【あいさつ運動】



【全校レク】

5 稚内市立稚内港小学校（児童数 58 名）

【取組の概要】

- ・年間を前後期に分けて児童会を組織し、学校生活を豊かに送るための活動、日常的な諸問題を集団的に解決していく場としての活動を各部門（児童会書記局・各委員会・代表委員会など）で具体化し、取り組んでいる。

【工夫点】

- ・児童の発想を生かして自主的、集団的に活動を生み出すようにする。
- ・児童の生活上のルールを確認し合い守ったり、生活上の問題の解決のために話し合ったりするようにする。

【成果】

- ・書記局や各委員会で、全校で楽しみ、全校児童が仲良くなるためのレクなどの取組を企画・運営した。
- ・レクを通して全校児童が一緒に楽しみ、児童間の交友が深まり、異学年間の交流の促進につながった。



【児童会企画「協力ゲーム」】



【児童会企画「港小七夕」】

6 稚内市立大岬小学校（児童数 40 名）

【取組の概要】

- ・活動名 児童会レク「ミニ運動会」
- ・日時・場所 6月24日（水）行間休み 体育館
- ・内容
 - (1) 玉入れ（3・4年、1年、2、5・6年）
 - (2) リレー（女子、男子）

【工夫点】

- ・児童会から取組を全校児童に発信することで、全校児童が意欲的に活動することができるようにする。
- ・児童会の取組を通して、全校児童が楽しめる場をつくり上げられるようにする。
- ・運営・司会を児童会書記局が担当することにより、主体的に活動している感覚を味わわせるようにする。

【成果】

- ・全校児童一人一人が児童会レクを通して、意欲的に活動することができた。
- ・コロナ禍で感染防止策を講じながら、児童全員が児童会の取組を通して、協力し合いながら楽しむことができた。



【玉入れの様子】



【リレーの様子】

7 稚内市立潮見が丘小学校（児童数 374 名）

【取組の概要】

- たてわり班活動
毎日の清掃を1～6年生までの異学年集団で行っている。
- 児童会あいさつ運動
あいさつ運動期間を定め、児童会役員が玄関に立ち、登校する児童にあいさつをして迎え入れる。
- 全校遊び
今年度は、コロナウイルス感染防止の観点から、2学年ごとに行った。異学年集団での遊びから、仲が良い全校集団づくりを目指している。
- 平和学習
3年生以上の総合的な学習の時間で平和学習を行い、身近な自分たちの平和（日常の学校生活）についても考えていく。
- コロナ禍での「スティグマ」の学習
「スティグマ」に関する題材を提供し、相手の立場に立って、どのような言動をすべきかについて考えを深める。



【たてわり班清掃】



【児童会活動～学年遊び】

【工夫点】

- ・児童会が中心となり、遊びやあいさつなどを計画し、全校の児童が参加する。
- ・たてわり班活動で、全ての学年が入るよう班編制をしている。
- ・コロナ禍における「スティグマ」は、子ども自身に考えさせる指導を行っている。

【成果】

- ・児童会役員のリーダー集団が意欲をもって取り組み、活動の意図が全校児童に広がっている。
- ・たてわり班活動では、上学年が下学年に対する優しい接し方が随所に見られている。
- ・「スティグマ」を理解し、どのような場面でも相手の立場に立って適切な行動がとれるように自ら考えられるようになった。

8 猿払村立鬼志別小学校（児童数 73 名）

【取組の概要】

- ・鬼志別小学校では、学級だけにとどまらず、より多くの仲間と「教え、励まし、助け合う」経験を通して、児童が集団の中で他者と関わり合いながら伸びていくことを目標に、異学年との関わりや縦割り班の活動に取り組んでいる。

<主な活動>

学校行事と関連した取組・縦割り班活動・児童会活動

【工夫点】

- ・学校行事と関連させた「教え、励まし、助け合う」活動の実施
→学芸参観日では、1年生と2年生、3・4年生と5年生、5年生と6年生が、それぞれの発表を見合い、良さや頑張りを伝え合った。
→運動会で、高学年と低学年が協力して取り組む種目や活動を行ったり、6年生を送る会で、縦割り班ごとに卒業生への感謝を表す色紙づくりを行ったりしている。
- ・日常的な縦割り班での活動の設定
→毎日の清掃活動や週1～2回の体力づくりを縦割り班で行うことで、高学年のリーダー性を育てるとともに、異年齢での力あわせの機会となっている。
- ・「にこにこ～協力して、元気で、仲の良い学校をめざそう～」という児童会スローガンのもと、「いじめがなく、一人一人が大切にされる学校」を目指した児童会活動の展開。
→クラスの良いところを全校に紹介する「良いクラスキャンペーン」の実施
→メモ帳の使い方についての児童総会での話し合い
(メモの交換や必要のないことに使わないなど、不快な思いをしない子が出ないようにするための話し合い)



【2年生から1年生へメッセージ】



【6年生が2年生へ、本の紹介】

【成果】

- ・友達の優れたところや頑張り認め合うことで、子ども同士の交流が深まっている。
- ・高学年児童が、全校的な視野で活動を進めていくことができるようになった。また、学年に応じた成長モデルを思い描くのにも効果的であった。
- ・児童会活動を通じて、いじめがなく、一人一人が大切にされる学校づくりを進められた。

9 猿払村立知来別小学校（児童数 30 名）

【取組の概要】

- 「PUT(パワーアップタイム)長縄跳び」
- 「学芸会がんばろう集会」

【工夫点】

- 中休みでの全校運動遊び。2学期は短縄跳びから始め、10月は長縄跳びを実施。高学年リーダーがしきり役となり、並び方、タイミングなどを低中学年に伝授。感染予防のためにマスク着用、大きい声の自粛、休憩を実施。
- 学芸会前の決起集会。新型コロナの対応で演目や発表方法を変更する中で、練習中の苦労や仲間への期待、本番に向けた決意を述べて応援しあうことが出来た。



【PUT長縄跳び】

【成果】

- 自分では多数跳べない子も、全員でタイミングを合わせると多数跳ぶことが出来、得意な子・苦手な子で励ましあい、目標を定め全員で記録を伸ばし、達成感を味わうことが出来た。
- 前日の総練習を見合うことが出来、本番直前の各学年の代表の決意にも、声援が送られた。感染拡大により、学芸会を急遽、延期する報告もなされたが、ライブ配信発表会に向けて、がんばる気持ちに切り替えることが出来た。



【学芸会がんばろう集会】

10 猿払村立浅茅野小学校（児童数 12 名）

【取組の概要】

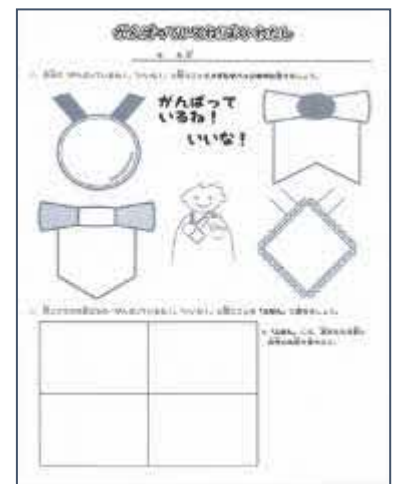
- ・職員朝会で児童交流の場を設定している。
- ・児童と担任や養護教諭が定期的に個人面談を行っている。
- ・学期に一度『がんばっているね！ぼく・わたし』を記入し、自分や友達の頑張りを振り返る機会を設定している。

【工夫点】

- ・面談では目標や心配事などを共感的に聞き取ることができるようにし、全職員で内容を交流している。
- ・お互いへのメッセージを掲示し、児童同士が認め合うことで自己有用感を高めることができるようにしている。

【成果】

- ・教員間で児童の実態が交流されることで、全職員で児童個々に合った関わりができた。
- ・面談を通して、児童と頑張りや課題点を共有でき、細やかな関わりができています。
- ・児童同士がお互いの良さに目を向けるようになるとともに、自分の頑張りにも気づき、自己有用感を高めることができた。



【がんばっているね！ぼくわたし】



【浅茅野の森のなかまたち】

11 浜頓別町立浜頓別小学校（児童数 129 名）

【取組の概要】

- ・自分たちの日常とはあまりにかけ離れた、劣悪な環境で生活し、学習している子どもたちの力になる活動に取り組みたいと考え、ユニセフ募金に協力することとした。

【工夫点】

- ・呼びかけ・ポスター掲示・募金箱設置のみではなく、取組期間中に複数回、登校時に児童会役員が対面での募金活動を実施した。

【成果】

- ・募金活動に取り組んだまとめとして、「必要な支援のためにみんながつながった」こと、それは、いじめのない学校に近づくことと発信できた。



【募金活動の様子】

12 中頓別町立中頓別小学校（児童数 60 名）

【取組の概要】

- ・児童会を主体としたあいさつ運動を実施。挨拶の大切さを呼びかけた。
- ・全校児童が仲良くなることを目的として、全校朝会等を活用したクイズ大会などの企画を行った。
- ・日常の授業の中で、児童が主体となるような授業づくりに努めた。

【工夫点】

- ・コロナ禍ではあるが、ポスターを作成して挨拶の大切さを呼びかけたり、オンラインを活用して発信したりすることができた。
- ・日常の授業の中で、学び合いを大切にした校内研修に取り組んだ。互いのよさを認め合ったり、助け合ったりする場面が増えた。

【成果】

- ・児童会書記局を中心にオンラインを活用しながら、ねらいを考えた活動に取り組むことができた。
- ・日常の授業の中で、児童を中心とした学び合いを進めることで、児童が安心して、落ち着いて生活することにつながった。



【オンラインを活用した全校朝会】



【児童を中心に据えた授業づくり】

13 枝幸町立枝幸小学校（児童数 207 名）

【取組の概要】

児童会・委員会が主体となって3密を避けながら異年齢で触れ合う企画を行った。また、児童会書記局では「ありがとうの木」を作成し、感謝の気持ちを表す活動を行った。

【工夫点】

児童の発想を活かした取組を行うとともに、できるだけ準備物を少なくし短時間で取り組めるよう工夫した。「ありがとうの木」は気軽に感謝の気持ちを表すことができるように、メッセージではなくシールで示した。

【成果】

異学年でのつながりをつくるきっかけや、異年齢への感謝の気持ちをもつ意識を育てることができた。



【体育委員会企画】



【ありがとうの木】

14 枝幸町立目梨泊小学校（児童数8名）

【取組の概要】

- ・全校児童8名は、4名ずつの縦割り班活動を行い、低学年と高学年が助け合い、日常生活に必要な仕事や遊びなどを行っています。
- ・掃除や給食当番等の係仕事、運動会、学芸会等の行事の班目標や個人目標を立て、校長先生や、みんなの前で発表する集会を行っています。

【工夫点】

- ・生活や給食、保健などの目標がわかりやすいよう、廊下や教室に掲示をしています。
- ・掃除や給食の活動後には、班で反省を行い、翌日の活動に生かしています。
- ・休み時間の遊びを仲良く行えるよう、低学年を配慮したルールを決めています。
- ・休み時間は、教師や支援員が、教室や体育館の様子を観察して、いじめの未然防止に努めています。

【成果】

- ・班のみんなで決めた目標が達成できるよう、高学年が中心に声かけをし、守ろうという意識が高まっています。できなかったことは反省で交流し、翌日に生かされています。
- ・休み時間の遊びでは、教師に言われなくても、ルールを決めて楽しく遊ぶことができるようになっていきます。



【縦割り班・決意発表集会】

15 枝幸町立岡島小学校（児童数9名）

【取組の概要】

- ・児童総会を開催し（前期・後期2回）、学校内の様々な問題に対して考え、話し合う活動。
- ・児童会組織（活動部）を主体とした全校レクリエーションや遊びを通しての人間関係づくり。
- ・高学年をリーダーにした全校縦割り班活動（清掃・給食当番等）。
- ・児童会書記局を主体とした朝のあいさつ運動。

【工夫点】

- ・話し合い活動を大切に、一つ一つの活動に意欲を持って取り組めるように、十分な「時間」と「場所」を保障した。
- ・取組後の振り返りを重視し、児童自身が取組を通してどのような思いを持ったのか、また、成果や課題を明らかにしながら次の取組へ活かすようにした。

【成果】

- ・校内の問題に対して互いに質問・意見交流をする中で、課題や頑張りどころを全校で共有できた。
- ・ゲームや遊びの活動を通して、相手のことを考えて接するようになった。また、友だちの良さに気付いたり、自分の思いを表現することが苦手だった児童が自分を表現したりすることができるようになってきた。
- ・異年齢での活動を通して、高学年は低学年の目線に立って物事を考え、行動する姿が多く見られるようになった。また、相手を思いやる優しさを持った態度が身に付いた。低学年は、高学年の姿や優しさに触れることで安心感を持つことができた。全校での関わりを深めることでいじめを許さない気持ちを共有している姿が見られた。
- ・朝のあいさつ運動の取組を通して、教室や廊下でのあいさつが元気になってきた。お互いの信頼関係がより構築されるきっかけの一つとなっている。



【児童総会の様子】



【全校遊びの様子】

16 枝幸町立山臼小学校（児童数 12 名）

【取組の概要】

- ・全校児童が参加した児童総会。
- ・書記局や委員会活動への質問が多数出て、活発な意見交換ができた。
- ・書記局三役の選挙公約に従い「相手のことを思いやって仲良くできる学校」を目指した児童総会となった。

【工夫点】

- ・低学年から高学年まで全校児童がわかりやすい活動目標を設定したこと。

【成果】

- ・低学年からも活発な意見や質問が出され、全校児童が主体的に参加する児童会活動のスタートを切ることができたこと。



【R2年度後期児童総会の様子】

17 枝幸町立乙忠部小学校（児童数 6 名）

【取組の概要】

- ・児童会高学年が中心となって取り組んでいる「全校あいさつ運動」です。期間中、当番制で出迎え、あいさつし合います。
- ・学芸会などの行事は全校児童で行います。学芸会の練習などでは、高学年児童が低学年児童を優しく導きます。
- ・全校レクは、児童会主催の行事です。定期的に行われます。

【工夫点】

- ・低学年の時に高学年から学んだことや経験を生かし、高学年が中心となって活動を進めさせている。
- ・「みんなで楽しむ」意識を高めるため、全員がそろそろ時間に設定している。

【成果】

- ・挨拶の大切さを理解し、実践している。
- ・高学年が低学年の面倒を見ることが当たり前になっている。
- ・高学年になるにつれて優しく接するようになってきている。
- ・子どもたちの笑顔で、学校の中が明るくなる。



【全校あいさつ運動】



【全校レクリエーション】

18 枝幸町立風烈布小学校（児童数 7 名）

【取組の概要】

- ・児童会役員選挙の際の公約として掲げた「楽しく仲良くいじめのない学校」を実現するために、毎月2回程度、児童会主催で「なかよしタイム」を開催し、交流を深めている。
- ・活動を始める前に高学年がルール説明を行い、仲良く遊ぶためには「ルールを守ることが大切」だということを伝えている。

【工夫点】

- ・委員会の日に児童会役員で計画し、後日の中休みを使って実施するというサイクルが確立しているため、定期的に行うことができた。
- ・活動の内容はドッジボールや鬼ごっこなど、低学年から高学年までみんなで楽しめる遊びを選んでいる。
- ・活動の後には簡単な感想を書いて振り返りを行い、書いたものは写真とともに廊下に掲示し、お互いの感想を読み合うことができています。

【成果】

- ・異学年でいっしょに遊ぶことによって、高学年にはリーダー性が、低学年には所属意識が高まった。
- ・「いじめのない学校づくり」を目指した取組に児童全員が参加し、一体感をもった活動ができた。



【児童会選挙の公約】



【児童会掲示板での感想交流】

19 豊富町立豊富小学校（児童数 174 名）

【取組の概要】

- ・児童会書記局が中心となって、「言葉大切運動」を展開し、全校児童への啓発を行った。

【工夫点】

- ・「言葉大切運動」では、気持ちの良い温かい言葉を書いて貼ることで学校全体に発信された。

【成果】

- ・学校全体にも、気持ちの良い言葉を使うという気運が高まり、温かい言葉が増えた。



【言葉大切運動ポスター】

20 礼文町立香深井小学校（児童数 12 名）

【取組の概要】

- 毎週取り組む全校遊び各種週会活動
児童会・各種委員会・各学級が信頼関係を構築したり、お互いの理解を深めたりするために、それぞれが全校遊びや集会活動を運営している。

【工夫点】

- 1年生から6年生までの児童と一緒に遊ぶことから、発達の段階が違って楽しめる遊びを条件に話し合いを行う。
- お互いに力合わせや協力し合わなければできない内容も盛り込み、互いの良さや仲を深めるような取組を意図的に作っている。
- ルールの説明については、どの児童も理解でき説明する児童も自信を持って話せるように、事前に担当教師と打合せを行っている。
- 準備が必要なものについては事前に考える場面を持つとともに、準備の具体的な段取りについても見通しを持たせて、自主的に取り組ませている。
- それぞれ担当となった委員会や学級の児童が司会を含めた運営を担っている。
- 時間が許せば、それぞれの感想や感謝の気落ちを伝える場も盛り込み、企画運営側の励みや次への意欲につなげている。
- 集会活動は保護者にも案内をし、子どもたちの自主的な活動や成長を感じ取ってもらうとともに、子どもたちを激励し自信をつける取組を共同で行っている。



【しっぽとり】



【ハロウィーン集会】

【成果】

- 様々な企画運営を通じて、低学年から高学年までのことを考えて企画したり、説明をしたりすることを意識して行動できるようになっている。
- 年間 50 回以上の保護者の来校から、子どもたち相互の人間関係を実際に見る場面を設定することから、子どもたちの様子や人間関係を保護者と共有することができる。
- リーダー的な活動を早いうちから体験でき、周りのことを考えて動くことやリーダーの在り方を学習できている。
また、それを見ている後輩たちの目指す姿がわかりやすくなっている。



【2学期がんばったね集会】

21 礼文町立船泊小学校（児童数 45 名）

- キニハ（木に葉をたくさん茂らせよう）の取組

（キ）:キビキビ （ニ）:ニコニコ （ハ）:ハキハキ

【取組の概要】

本校では、運動会、学芸会の行事の取組期間を通じて、児童が学年を超えて個々の頑張りを評価し合い、認め合う機会を設けている。企画・運営を児童会書記局が担い、児童ホール壁面に木の幹を掲示し、個人・学年・組群の頑張りを別に作成した“葉”に記入して、木に貼っていき、大きな木を完成させる。



【昨年度学芸会時の「キニハ」】

【工夫点】

児童会書記局が企画運営し、行事成功に向けて、全校児童が意欲的に取り組んでいけるように、取組について全校朝会で説明して協力を呼びかける。また、朝や休み時間にも声かけを行い、より多くの葉が茂らせようとしていた。

【成果】

今年度は運動会のみが取組となったが、各児童が、周りの友達や異学年の児童の頑張りが良いところを、積極的に“葉”に記入して幹に貼り付けたことにより、非常に大きなキニハが完成した。友達のちょっとした頑張りが取り上げ、記入することで、これまで以上に、仲間の良い点に気づくことができ、“葉”に書かれた内容を読むことにより、他の児童も、改めてその児童の良い点を知ることができていた。また、仲間から認められたことが自分の自信につながった。自己有用感を得たことで、ほかの活動にも意欲的に取り組めるようになった。

- 朝活動の取組（学年対抗の大会）

【取組の概要】

本校では朝活動の時間に体力向上を目指した活動を行っている。その中の一つに“縄跳び”がある。個人の技術や記録を伸ばす取組もしているが、クラスや仲間がより強くつながるよう、児童書記局が企画運営してクラスで協力して記録を伸ばす、様々な縄跳び競技を行っている。



【100回以上跳んで優勝した2年生】

【工夫点】

体力作りは個人での取組になってしまいがちだが、周りの仲間とともに協力して練習し、他学年と競うことで、体力作りのみならず、仲間作りにもつなげていくよう、協力し合うことが必要な学年対抗の団体競技を企画した。

児童会書記局で、様々な案を出した中で、「長縄跳び」「縄跳びリレー」「連続回数」などを行った。各学年で児童数も違い、体力差もあるため、高学年にハンデを付けたり、低学年には跳ぶ回数にボーナスを付けたりするなどの工夫を凝らした。

【成果】

個人の取組だけではなく、クラス対抗で行う競技として取り組む中で、クラス内で声を掛け合い、休み時間にみんなで練習する中で、クラスのまとまりが見られた。

上級生はハンデをつけられた中で競技を行い、ハンデが大きすぎて、低学年が優勝してしまったが、勝った低学年に優しく声をかけ、大きな拍手で低学年を称えていた。

また、低学年は無邪気に喜んでいて、どの学年も勝ち負けにこだわらずに、楽しく体力向上を図ることができ、クラスの中での仲間作りにも大きな成果が見られた。

22 礼文町立礼文小学校（児童数 51 名）

【取組の概要】

- 思いやりの木
 - ・ 学校生活で優しくされたことなどを、児童がメッセージカードに記入して掲示板に貼る活動から、全校児童の思いやりの気持ちの醸成につなげる目的で、児童会主体で取り組んでいる。
- あいさつ運動
 - ・ あいさつを積極的に交わせる環境づくりから、いじめ防止につなげる目的で、児童会主体で取り組んでいる。

【工夫点】

- 思いやりの木
 - ・ 自分の学年だけでなく、他学年とのつながりの視点も持たせ、記入させている。
 - ・ 掲示板を木に見立て貼ることにより、各児童のよさ等を可視化できるようにする
- あいさつ運動
 - ・ 継続性を大切にし、毎週月・金曜日の朝に行っている。
 - ・ あいさつから、他学年との児童と言葉を交わせるように意識させている。



【思いやりの木】

【成果】

- 思いやりの木
 - ・ 全校児童の思いやりの気持ちの醸成
 - ・ 自尊感情、自己有用感の醸成
- あいさつ運動
 - ・ あいさつから他学年児童との交流が増え、仲間意識の醸成から、いじめの未然防止を図っている。



【あいさつ運動】

23 利尻町立仙法志小学校（児童数 9 名）

【取組の概要】

- ・ 活動名「いい所発見表」
- ・ 児童会書記局が企画。
- ・ 日常生活の場面で、よい行動をしていた人を見つけ、カードに書いて貼る。
- ・ カードと台紙は児童会の児童が作成し、無くなると新しいものを用意している。
- ・ 4月から1年間継続して取り組んでいる。

【工夫点】

- ・ 全校児童が必ず通る児童玄関前に掲示。
- ・ 帰りの待ち時間に記入できるよう、鉛筆やのりも同じ場所に設置。
- ・ カードはイラスト入りで児童会手作り。
- ・ 昨年度から継続して取り組んでいるので、カードの記入はスムーズで、今年も全員が何枚も記入している。

【成果】

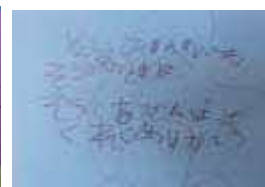
- ・ 小規模校だが、学年を越え、全校みんな仲が良い。
- ・ いじめ調査や日常的な観察からも、いじめやそれに類する行動、言動はほとんど見られない。
- ・ 相互評価の活動が、いじめの発見や未然防止につながっていると思われる。



【いいところ発表表】



【良いと思った行動】



【感謝の気持ち】

24 利尻町立沓形小学校（児童数 48 名）

【取組の概要】

- ・毎月、児童会書記局があいさつ運動を実施しニコニコ元気にあいさつできた児童を全校朝会のときに発表。
- ・学年の枠を越えて親睦を深める全校遊びを実施。

【工夫点】

- ・全校朝会前に全校児童と目を合わせてあいさつ運動を行い、声をかけ合う場面を意識的に設定している。
- ・他学年、異性とも、ふれ合う場面を意識的に設定している。

【成果】

- ・あいさつや全校遊びを通して、他学年のことを知る機会が増え、お互いがそれぞれに思いやりの気持ちをもつなど配慮ができるようになった。



【児童会書記局中心のあいさつ運動】



【全校児童48名による「全校遊び」】

25 幌延町立幌延小学校（児童数 111 名）

【取組の概要】

- ・児童会が中心となり、スズランテープでクリスマスツリーを作成。
- ・一人一人が欲しい物をカードに書いた。
- ・カードを見合い、学年を越えて話をした。

【工夫点】

- ・児童会が主体となり、企画準備を行った。
- ・縦割り班活動の一つとして内容を改善し行った。
- ・一人一人の願いを大切にした。

【成果】

- ・コロナ禍で縦割り活動が制限される中、感染対策を考えることも、みんなの命を思いやり、主体的に行う活動へとつながった。
- ・カードに書かれた欲しい物は、「もの」にとらわれず、「知恵」「時間」など形のないものにも及び、注目や同感を集めた。
- ・学年を越えて、会話がうまれた。
- ・友だちの良さの気付きにつながった。
- ・低学年への認め励ます声かけが、高学年から起こった。



【突如現れた巨大ツリーに子どもたちは大興奮！】



【ほしいものカード】

26 稚内市立増幌小中学校（児童生徒数 17 名）

【取組の概要】

- ・いじめ 標語の創作活動によって「いじめは絶対に許さない」という意識を高め、更に入選作品の全校朝会での表彰、紹介によって全校への意識化を図った。

【工夫点】

- ・いじめ 標語の入選作品を全校朝会で表彰し、全校児童生徒に紹介したことで、「いじめは絶対に許さない」という気持ちを更に深めることができた。

【成果】

- ・標語活動を通して、いじめ問題を主体的に考える機会となった。



【全校朝会における表彰の様子】

27 豊富町立兜沼小中学校（児童生徒数 8 名）

【取組の概要】

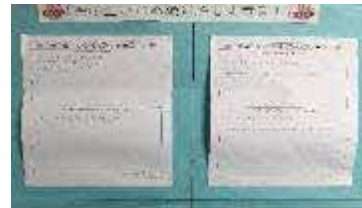
- ・ 道徳「いじめから目をそむけない」の学習で、いじめをなくすために自分自身と学校全体でどのようなことを取り組めるか考えた。考えた内容を、生徒がワークシートにまとめ、交流した。その後、小学生に対して宣言の内容を発表し、学校全体でもいじめをなくすために自分たちができることを伝えた。

【工夫点】

- ・ 「いじめは絶対にしてはいけない」ということをしっかりと定着させるため、いじめられたときの気持ちを考えさせた。
- ・ 中学校第2学年の在籍が1名のため、中学校全体でいじめに関する道徳の授業を複数回実施した。他者の意見を聞き自分の考えと比較し考えを深めさせた。

【成果】

- ・ いじめ調査アンケート……「嫌な思いをしたことがある」0件
- ・ 日常から仲間に対する優しさや、相手のことを考えた言動が多く見られるようになった。



【生徒が考えた宣言】



【宣言を発表する様子】

28 利尻富士町立利尻小学校・鬼脇中学校（児童生徒数 49 名）

【取組の概要】

子どもたちに「社会性」や「規範意識」、「思いやりなどの豊かな心」などを教育活動全体を通じて、育んでいくことが重要である。本校は平成30年度に利尻小学校と鬼脇中学校が統合され、併置校となった。併置校の利点を生かし、小中の分け隔て無く子どもたちを見ていくことを大切にしていきたい。そこで、小中一致し、チームとして取組を行い、全教職員で全児童生徒を見ていき、育てていく体制を作っていく。

【工夫点】

- ① Hyper QU の実施
学級集団の特性を把握するだけでなく、学級を構成する児童・生徒一人一人のソーシャルスキルの尺度など、客観的なデータを得ることができた。それらのデータをもとに、学級の集団作りや教育相談など生徒指導の多くの場面で活用することができた。
- ② 個に応じた教育相談の実施
普段の生活の様子や Hyper QU の結果を踏まえ、学級担任が教育相談を実施している。学習面や人間関係の悩みを聞き取り、解決に向けた方策についてアドバイスを行っている。また、中学校では学習に関する悩みについては、教科相談という形で実施している。学級担任だけでなく、各教科の教員からいろいろな視点で生徒にアドバイスを行っている。
- ③ 月一回の生徒指導部・職員会議での児童・生徒の実態交流
保健室の来室状況や普段の状況を総合的に見て、気になる児童生徒については生徒指導部内・職員会議において情報交流を行い、全教職員で共有している。その中で問題・課題への対策を考え、具体的取組につなげている。

【成果】

新型コロナウイルスの影響により、生活様式が大きく変化する中。学校生活を送る中でストレスや不安を抱える子どもが多くなってきている。そのような中、QU で得られた客観的なデータを用い効果的な教育相談を行うことにより、子どもたちの抱えている課題等に向き合うことができた。